

法以 犯上 外刑 罪	傷 害	強 姦	横 領	恐 喝	詐 欺	竊 盜	強 盜	殺 人	放 火	種 別	犯罪發生狀況調査表(正十二年自九月一日起至十月廿四日間) 埼玉縣	
											發生件数	前年同期トノ比較
一 三 四	四 〇	二	四 〇	七	九 五	二 四 四	一 一	四	一 二		增	四 二
					一 九		九	四	三		減	
			一			六 五						
一 〇 三	四 〇	二	五 四	七	一 五 一	一 三 〇	八	四	六			一 〇 三
					一 七	一 五 五	三	一	六			

27

合計	刑法外 犯罪
九四三	三五六
三四二	三一八
六六	
八六三	三五八
一八八	

## 備考

一、発生件数ニ対シ検挙未検挙合計件数ノ符合セ  
 サルハ検挙件数中ニ九月以前発生ノ犯罪及  
 他社線ノ犯罪等ヲ検挙シタル数ヲモ計上シタルヲ  
 以テ符合セサルモノナリ

二、刑法外ノ犯罪著ク増加シタルハ暴利取締令違  
 及者検挙ニ因ルモノナリ

震災後ニ於テ凡ク犯罪調査表

茨城縣

種別	發生件數	前年同期ト比較	増	減	檢挙件數	未檢挙件數
放火	五	二	一	二	五	一
放火未遂	一	一	一	一	一	一
住居侵入	一	一	一	一	一	一
傷害	六四	二	二	三	六四	一
脅迫	四	二	二	四	四	一
詐欺	一〇〇	五	七	七	九六	七
横領	六九	五	七	七	八七	一
過失傷害	三	二	一	三	三	一
過失致死	三	一	一	三	三	一
過失傷害	二	一	一	二	二	一

略取誘拐	誘拐	強姦未遂	強盗	失火	恐喝	文書毀棄	毀棄隱匿	毀棄	贈物千スル罪	窃盗	業務過失傷害
	四	二		二	二	一	一	三	一八	四〇六	三
		一					一	二	七		一
三	二		一	五	二					九九	
	四	一		二	二	一	一	三	二六	二六五	三
										一七七	

茨  
卡

背 任	教 誨	誣 告	墮 胎	賭 博	文 書 偽 造	營 利 誘 拐	殺 人 未 遂	殺 人	傷 害	幸 務 上 總 領	公 家 誘 拐
	三	七	一	三五	四	一	一	四	一	五 二	
		六				一			一	二 二	
一			一	七	二		一				一
	三	七	一	三五	八	一	一	四	一	七 二	

漢  
字

公務執行妨害	一				
名誉毀損	五	二		五	一
暴行	八	五		八	
飲料水汚穢			一		
往来妨害	八	七		八	
変死人密葬			一		
計	八五六	六三	二六六	七五六	一八六

備考

一 発生件数を標二記入ナリ前年同期ト比較減標中ニハ六ノモノハ本年  
 同期中発生セタル犯罪ナルモ昨年九月十月一両月発生シタルモノヲ計止ス  
 二 表中検査及未検査件数ヲ合算発生件数ト符合セタルハ他段内ニ於テ  
 発生シタル事件ヲ年別ニ於テ検査シタルヲ計トシタルニ因ル

大正十二年							自九月一日		至十月三十一日		犯罪被害及檢挙件数調査表		長野縣	
通貨偽造	秘密之侵害罪	住居之侵害罪	往来妨害	盗水々利 =関スル罪	失火	放火	犯罪 証拠隠滅	逃走罪	公務執行妨害	發生件数	前年同期ト比較	檢挙件数	未檢挙件数	
	一	一五	二	一	三八	三	一	二	三		増 三	減 一	三	二
	一	三			一	二								
	一	一五	一	一	三八	三	一	二	三					
			一											

長野 一

殺人未遂	嬰児殺	殺人	賄賂	礼拝壇臺 ニ関スル 罪	常習賭博	普通賭博	裸裝女子淫童娼	証告	偽證	印章偽造	有價証券偽造	文書偽造
二		二	一	三	五	九	一四	三		二		二〇
		一		三	五		一一	二				一
二	五					三八			二		一	
二		一	一	三	五	九	一四	三		三		二一
		一										



名譽討死罪	略取誘拐	脅迫	逮捕監禁	遺棄	墮胎	業務上過失傷害	失過失傷害致死	過失傷害	單純暴行	傷害致死	傷害	自殺未遂罪
二	七	二	三		一	六	一七	三	七	一	七二	一
二	四		三				三		一	一	二	
		二		四	二	一		七				
二	七	二	三		一	五	一七	三	七	一	七二	一

計	毀棄隱匿	贓物隠蔽罪	其他横領	業務横領	横領	恐喝罪	背任罪	詐欺	強盗	窃盗	信用業務対罪
一三六八	一八	一四	五二	四四	一三二	二	三	二五七	三	六一三	一
一一一	九		四四				二		三		一
九六〇		三二		五二	一三	六		五四五		二三三	
一一二九	一六	一四	五六	五〇	一三四	二	三	二五四	五	三五五	一
二六五	二							三		二五八	

長理ノ二

## 備考

本表犯罪発生件数一三七八件ニ対シ検挙件数  
 一三九件ニシテ未検挙件数二六五件トアリ差引符  
 合セサルハ検挙件数中他管内ニ於テ発生事件  
 検挙一六件ヲ含ムヲ以テナリ

(十三) 避難者密集地其他、警備

東京市内ニ於ケル凡ノ内日比谷、芝、上野、浅草、靖国神社境内、牛ヶ淵、帝皇大学、第一高等学校、横濱市ニ於ケル公園、掃部山、第一中学校、平楽ヶ原、茅ヶ丘、場、震災後早クモ市民、避難所トナリタルカ、震災ノ延焼スルニ伴ヒ、罹災民、周囲ヨリ、増集シ、震災後數日間、此等地域ニ於ケル避難民ハ、少キモ數千多キハ、數萬ニ達シ、罹災者ト、搬出セラレタル家財、道具トシテ、金ク地面ヲ覆フ、状況ニシテ、其恫、罹名状ス、ハカラサシム、アリシモ、軍隊並ニ、警察官ハ、能ク此ノ、罹、不安ノ中ニ在リテ、罹災民ノ、保護並ニ、治安ノ、維持ニ任シ

事故ナキヲ得タリ其後昨日、経過ニ後ヒ避難  
 民ハ縁辺ヲ出リテ郷里ニ歸リ或ハ他ニ避難所  
 ヲ述メテ又ニ赴キ或ハ仮小屋ヲ作りテ之ニ復歸ス  
 ル等漸次其ノ數ヲ減シタリト雖モ此等地域ニ於  
 テバラックヲ急造シ又ハ公設バラックニ入ル者亦  
 稍固定スルモノ尙數千ヲ以テ算スルノ情状ナルヲ  
 以テ適当ノ警務官ヲ配置シテ其治安維持ニ任  
 セシメツ、アリ

震災後數日ニシテ再通セル鐵道線路ノ停車  
 場及芝浦ノ乗船場ハ限リナキ避難民殺倒シ  
 先ヲ争ヒテ近郷其他ニ避難セントシ其ノ混雜  
 名状スヘカラスルモノアリ之カ警戒取締ニ要シ

41

テハ少カラサル苦心ヲ償ヒタルトコロナルカ或ハ此  
 幼病者ノ為ニ特殊ノ保護ヲ加ハ或ハ駅員ト協  
 カレテ危険ナル乗車ヲ抑制スル事ノ保護整  
 理ニ任ズタルノ外芝罘、清水、連綿船ニハ警  
 署、警署ヲ移動警察官ヲ集込マレテ船内ノ  
 秩序維持ニ當ラレタリ  
 重要ナル官公衙銀行等ニハ當初ヨリ警察  
 官又ハ軍隊ヲ派遣シテ警戒スルトコロアリタルカ  
 救護物取ノ盛ニ到着シテ其疎、藏前等ニ集  
 積セラル、ニ及ヒテハ物ニ此界ノ地臭ニモ巡查隊  
 出所ヲ新設シテ警戒ニ當ラレタリ  
 各倉庫ニ多数ノ警察官ヲ配置シテ以テ今

0239

日  
夏  
一  
り

42

④ 消防

東京横浜、横須賀、小田原等ニ於テハ地震後  
 河又ナク教テ所乃至數十箇所ニ火ヲ發シ殊ニ  
 東京市ノ如キハ第一震後二十分ヲ出スレテ  
 警報又ハ消防官署ニ於テ認知<sup>得</sup>ルモノ七十  
 有餘ニ達シ横浜ニ於テハ震災直後一時ニ教テ所  
 ヲ發火シ須臾ニテ全市ニ火焰ヲ飛ハシ折カラ  
 烈風ニ煽ラレテ燃下ニ燃上リタルカ當時家屋ハ  
 數旬ニ亘ル旱天ニ乾燥セルノミナラス屋上ノ不  
 燃性屋葺物地震ノ為ニ剥落シ飛火ノ到ル  
 地忽チ發火スルノ状現ニシテ如フルニ各所ニ起リ  
 タル強烈ナル旋風ハ一層火勢ヲ煽リ甚ノ延

43



燒神速平常ノ消防設備ニテハ到底力ノ及ハサ  
 ルモノアリタリ  
 各地ノ消防隊ハ直ニ出動セラレ全カヲ消防火ニ傾注  
 セタリ一雖消防器具ノ數ハ弁火ノ個所數ノ半  
 ハニテ遺ヤス加フルニ水路破壊シテ水道ハ火災  
 後約三分ニシテ全ク涸竭シ僅ニ河川壕渠  
 ノ水ヲ利用シ得ルニ過キス是等ニ付テモ平常  
 ヲリ其ノ準備ナキカ為ニ水アルモ唧筒ノ近ツク路  
 ナキモノアリ不利不便夥シク加フルニ風力吹勢ニ  
 加ハリ風位ノ變轉亦極リナク一日ノ如キ午後ノ  
 ノミニテモ風向ノ轉換十回ニ上リ橋梁ノ破壊橋  
 線ノ舞下リ相俾テテ敏速ナル行動ヲ拘束シ

交通之信ノ方法絶ハタルカ為ニ指揮連絡ノ途ナク  
 奮闘ニ奮闘ヲ鑑ケタルコト筆談ニ書スコト能ハサル  
 モノアリ 唧筒ノ膜背ニ火焰ヲ受ケ必死ノ努力モ  
 遂ニ唧筒ヲ取タルコト能ハスレテ消防隊ノ辛  
 フレテ頭中ニ虫込ミ一身ヲ金フモタルモノアリ  
 火焰ヲ潜リテ消防出張所ヨリ視ニ遂ニ所前ニ身  
 ヲ落シタル消防署長アリ 給養ノ途ナキヨリ  
 於テ餓テ火ト闘ヒタル消防隊員ノ活動ニハ  
 彼ツハキモイ少カラサルカ如シ  
 震災後ニ於テハ取敢ヘズ應急ノ施設トシテ二三  
 ノ器具ヲ臨時ニ設備シテ消防力ヲ補充ニ配  
 置ヲ改メテ市内ノ疎存部分ニ主力ヲ集メ集

团的、バラック所在地、救護品等、集積場  
 各、急ニ応スル消防設備ヲ施シ水道、復  
 旧ニ應ジテ又ヲ利用スルノ設備ヲ整フルノ外  
 電、事業者ニ對シテ導線、導管ニ與シ注意警  
 告ヲ其フルト共ニ此ノ際故障ノ有無ヲ細密ニ  
 調査セシメ然ルニテモ危険ノ虞アル箇所ニ對シテ  
 ハ直ニ修覆セシムルノ方法ヲ講ジシリ  
 仮小屋ノ建設漸ク多キニ至リ加フルニ即冬季  
 ニ近キナルヲ以テ特ニ大災予防ニ努力スルノ  
 必要アルヲ以テ先ツ多数ノポスターヲ停車  
 場、公及署等ニ貼付シ火災豫防ノ宣傳ヲ  
 為スノ外巡查ヲシテ各戸ニ火氣取扱及容易心

消火方法其ノ設備等ノ注意書ヲ配付セシメ  
又消防部長以下ヲシテ火災豫防ニ関スル講  
議ニあラムル事有ニル方法ヲ以テ火災防止  
努力ヲウケアリ

#### 四 警備部ト救護事業

##### (一) 一般救護事業及其援助

東京市ニ於テハ震災ノ第一日既ニ物資ノ供給  
 地タル下町方面枢要ノ商区焼燼シ倉庫亦悉  
 ク烏有ニ歸シタルヲ災害後直ニ食糧ノ窮乏ヲ  
 訴フヘキ情勢ニ在リ而シテ之カ補給ヲ地方ヨリ受ク  
 ルノ法ヲ講スルハ焦眉ノ問題タルニ拘ラス当初ニ於テ  
 ハ救護ニ関スル特設ノ機関ナリ混乱甚シキカ爲府市  
 当局者ニ於テ十分ノ手當ヲ爲スコトモ不可能状態  
 ニアリタルヲ以テ警察当局者ハ其力ニ於テ出来得

限り救護の努力ナリ、既に警視廳ハ逸早ク各方面ヨリ米塩其他食糧品ヲ徵發開始シ居ルカ當時警視廳本部タリシ第一中學校校庭ニ數十ノ大釜ヲ据ヘ宮内省ノ撒水車ニテ田水ヲ配給ヲ受ケ教習生及本部ニ避難セル婦女ノ手ニテ徵發米ノ炊出ヲ爲シタル爲警視廳ノ手及フ範圍ニ在リシ多数ノ避難民ハ最モ早ク饑餓ヨリ免ルルヲ得タリ

二日夕刻神奈川県西段高等課長及野口警務課長ノ報告ニ依リ横浜市ハ東京市以上ノ慘状ナリニ不拘食糧缺乏ニ救護ノ方法全ク缺如セル事情判明シタルヲ以テ直ニ千葉県知事ニ対シ至急食糧品ヲ請運シ救護班ヲ組織シテ海路横浜ニ回航セシムル

様通牒セリ。

震災以後、当時森岡神奈川縣警察部長ハ所在不明ヲ傳ヘラレシモ逸早ニ港内ニ碇泊セルコレア丸ニ赴キ無線電信ヲ以テ急ニ阪神、官憲並ニ新聞社ニ通報シタリ。此、電報ハ一日午後十ニ時頃大阪ニ到着シタルモノニシテ震災、公報、関西ニ傳ヘラレタル第一報タリ大阪府及兵庫縣等ハ之依テ救護ノ計劃ヲ始メ翌日直ニ食糧品及救護品ヲ積載セル船ヲ出發セシメタルモノニシテ救護上ニ於ケル功績 役スベキナルモノアリ。

救護事務局、組織セラル、ニ及ヒ警備保局ハ警備部トシテ専ラ震災地、警備戒警備ニ任スルコトナリ。

直接救護事務ニ関與セスト雖モ並警察官ヨシニ  
 物資ノ配給ヲ援助セシメ或ハ視察員ノ報告ニ基  
 十配給不充分ナル方面ヲ當該部局ニ報シテ配給  
 圓滑不偏ニ資スル所アリク

一日末東京横浜等ニ於テ火災ニ遭遇シタル罹災  
 民ハ陸續トシテ郡部近縣ニ避難シタル中ニ親戚  
 故舊等ノ依ルヘキモアルニ非ズ唯身ヲ以テ安全ナル  
 地方ニト速レタル者少カラズ疲勞饑餓ノ爲ニ其困  
 憊スルモノ多カルヘキヲ以テ三日近縣知事ニ對シ此  
 等避難民ニ對シテハ地方民衆ヲシテ愛愍ノ情ヲ  
 喚起セシメ當分ノ間地方團體又ハ有志者ニ於テ救  
 護ノ方法ヲ講ニ稱無線電信ヲ以テ通牒セリ



以上、外警視廳ニ於テハ多数罹災者カ災害当  
 時住居ナクシテ一般ニ困難ニ居タルヲ以テ夙ニ市内  
 五ヶ所ニ大規模ノバラックヲ建設シテ收容ニタルカ  
 十一所ナリ現在ニ於テル收容者九ノ如シ

場所	收容户数	收容人員
靖國神社境内	六三七	三〇二〇
日比谷公園内	六三四	三二二一
上野公園兩大師前	五二五	二一三四
池端池畔 <small>池畔ニテ建設</small>	一一一三	四〇三七
上野公園井台 <small>井台ニテ建設</small>	五七七	二四二〇

## 四 罹災民の保護

死傷者多数ヲ出セル東京横濱ニ於テハ父母ヲ失ヒタル者一家離散ニタル者亦夥ニキ數ニ達シ此等ニ對シテハ取敢ヘス警察署ニ於テ必要ナル保護ヲ加ヘタル其人員警視廳管下ニシテモ一時十餘名ニ達セリ此等迷子迷人ニ付テハ警察署其他必要ノ場所ニ其人名ヲ標示スル等其保護中ナルトテ親戚縁者ニ告知スルノ方法ヲ講ジ多クハ出頭シ引取人ニ引渡シタルカ残リ引取人不明ノ者ハ市区町村当局ニ引渡シタリ

其他親戚故舊、安否問合せ行衛不明者、調査

照合等引モ切ラス震災後警察事務多忙ヲ極  
メテ際ナルモ此種照會ニ対シテハ出来得ル限り調査  
ヲ為シ判明セル限り回答ヲ為シタリ

### ③ 海外ヨリノ救援

本邦震災ノ報一度海外ニ傳ハルヤ列国ノ同情ハ愈  
然トシテ集リ義捐金品ノ寄贈救援班ノ派遣等  
甚カクサリシカ此等外国ヨリノ救援至項ニ付テハ食  
糧其他必需品物資ノ供給ハ喜ニテ之ヲ受クルモノ  
派シテ救援事務等ニ協力セシメントスル申込ニ対シテハ其  
好意ヲ深謝スルニ帝國政府存リ既ニ夫々各機関ノ救援

ヲ有シ且言語風俗等ノ關係上錯綜ヨ来ス等ノ虞  
ナキニアラサル等ノ事情ニ鑑ミ之ヲ辭遣スルノ方途ニ出  
テタルカ既ニ到着シ又ハ現ニ本國中ノモノニ付テハ  
務當局ニ於テ適宜ノ措置ヲ執ルコトトレリ

列國ノ救援申茲ニ持筆大書スヘキハ米國官民ノ  
熱誠而モ敏速ナル救援ナリ

京濱震災ノ報、華盛頓ニ達シタルハ地震後十  
六時間後ニシテ大統領ハ九月三日ヨリ救済  
會議ヲ開キ直ニ大連芝罘漢口其他ニ碇泊中ノ  
米艦ニ食糧其他ヲ積載シテ賑災ノ急行ヲ命ジ  
五日ニハ米本國ヨリ第一船ヲ發遣シ解纜セル狀況ニ  
シテ海軍運送船ヲラクホクヲ馳ルハ食糧品衛生材

料ヲ満載シテ九月十日横濱ニ到着スルニ始トシテ  
續々来着セリ

米國赤十字社ノ活動ハ特ニ顯著ニシテ報導ニ達  
スルヤ時ニ遷サズ義捐金ノ募集ヲ開始シ又汽船

×リットルニ救護材料ヲ積載シテ救護班ヲ派遣

セリ同船ハ九月十五日横濱着一行ハ班長軍醫

中佐ダニール以下醫員十三名總費百餘名ニシテ

横濱市村山下町ニ五幕張野戰病院ヲ建設シ

邦人患者ヲ爲特ニ英語ヲ解スル邦人看護婦ヲ

雇入ル、兼專ニ傷病者ヲ救護ニ努メ九月十日

一日設備諸材料一切ヲ我赤十字社ニ引渡シ帰

國ニ達ニ就キ、右設備材料ノ價格四十五萬ニ

達スベク其間邦人ニ支拂ヒタル給料ノミニテモ四千  
帛ヲ超過セリト云フ

其他列國ニシテ特ニ救護船ヲ仕立テ本邦ニ派  
遣シタルハ佛蘭西及濠洲ナリ

此等外國艦船、不用港場タル品川ノ港ニ関シ  
テハ外務次官ヨリ照會モアリ甚乗組員載貨  
ノ取扱上行違等ヲ生セサルヲ警視總監迄ニ赤  
京府知事ニ通牒ヲ發セリ

#### (四) 暹羅外國人救護状況

横濱市ニ於テハ外國人ノ密集地タル山下町山下町

才而地震ト同時ニ全ク壊滅ニ帰シ間モナリ火災ニ  
 襲ハレタル為メ被害甚大ニシテ死者一ミニテ支那人  
 千五百餘人欧米人二百五十名ニシテ傷者行衛  
 不明者ヲ合スルハ全ク留民ノ六十%ニ達ヤリ  
 白人ノ被害比較的少キハ當時尚残暑ノ候ニシテ  
 避暑ニ在リタル者多キニ基因スルカ如シ  
 東京市ニ於テハ死者ハ僅カニ六名ニ過キサルモ家  
 屋ノ焼失シタル者千二百余人同倒壊シタル者  
 千百七十餘人ニシテ罹災者ハ九分ハ支那人也  
 之支那人ハ火災ニ襲ハレタル下町ニ居テ有ル者  
 多ク又倒壊ノ厄ニ遭ヒタル者ハ地盤脆弱ニ隣接  
 郡部ニテ居住シタル者多キニ因ルカ如シ

此等罹災民中歐米人々横濱ニ於テハ港内碇泊  
 中ノ外國船舶ニ逃レ後歸國又ハ阪神其他ノ地ニ  
 避難シタル者多ク東京ニ於テハ山手方面ノ知己故  
 舊ヲ便リタルモノ多シ

白人罹災者ニシテ米國其他各自國大公使館ニ  
 於テ救護ヲ受ケタル者アルモ其數極トテ少シ其他震  
 災當時箱根ニ在リテ外國人ニシテ交通ノ杜絶食  
 糧ノ缺乏ニ為テ困憊ニ居レリトハ情報アリタルヲ以テ  
 之ノ救濟才ニ關シ靜岡縣知事ニ手配スル等罹災  
 事情ノ判明ニ毎ニ便宜救護ノ法ヲ講ギ  
 支那人罹災民ハ多ク細民階級ニシテ救護ノ必要  
 トスル者多ク又朝鮮人ト誤認セラルル程傷セズヤル



者も凡一状況ナリニテ以テ可成之ヲ集團セシムルハ彼  
 等ノ保護救済ノ便宜ヲ多クシテ以テ習志野其  
 他ノ集合セシムルハ法ヲ執リ帰國希望者ニ對シ  
 テ無貨輸送ノ法ヲ講ニタルカ其人員警視  
 隊下ニシテ百人 神奈川縣千五百人ニ達セリ  
 外國使臣ノ自國罹災民調査救済ニ關シテ  
 外務省ヨリ照會セリ夫レ可及的便宜ヲ供與  
 不悉ナリタリ

七

## 五 其他

(一) 罹災地行啓並離官宮邸ノ御警衛

攝政宮殿下ニ九月十五日早朝福用司殿司令  
 官舎良侍後武官其他供奉員ヲ從ヘ御乗馬  
 并帝都罹災ノ実況ヲ御視察遊サレ後拜啓  
 係帝長賜御警視銀是御啓事申上ケタルカ  
 満目唯羞涼タル焦土ト化セル慘狀ニ大自然ノ  
 偉力ノ怖リサテ御嘆息也サレ罹災民ニ御憐  
 愍ヲ垂レ給ヒ又整備救護ノ為ニ夙夜精勵  
 治新セル軍隊整頓ノ勞苦ヲ嘉セラレ給ヒタル  
 氣謙望シ御下向ニ對シ賜御視察是ヨリ  
 罹災及火災ノ状況死傷者數避難民ノ情況

其他患生状態等ヲ詳シテ言上スル所アリ  
 翌日十七日ニハ終官最モ甚シキ江東方面ニ御視  
 察遊サレ又十月十日ニハ神奈川県下罹災地  
 ニ元行啓下ラセテ親シテ御巡視遊サレタリ  
 日光御用邸御駐紮中、皇后陛下ニモ今回  
 ノ震災ヲ日夜御鞫念遊サレ親シテ罹災地ノ  
 惨状ヲ御巡視遊下ル。為メ九月廿九日御還啓  
 遊サレ翌三十日、兩日ニ亘リ焼野ノ原ト化セル  
 市街ヲ御視察。各所罹災傷病者救  
 養所ニ出ラセテ親シテ傷病者ヲ御慰問遊  
 下レ十一月五日ニハ横政市ニ行啓病民傷病者  
 救養所等ニ至リ御慰問下ラセテ其外其他、

宮殿下ニ天雁災氏御慰詞有難キ御思召  
 東京横浜其他江歸、震災地ニ成ラセラルアリ  
 望室ノ蒼生ヲ御憐憫垂サル、仰ク畏キ極ナリ  
 行啓御警衛ニ付テハ平素ヨリ極メテ細心ノ注意  
 ヲ拂ヒツ、アル所ナルモ震災後ノ混乱ニ際シ人心動  
 搖、折柄ナリシヲ以テ一層緊張シテ其任ニ當リ  
 為敬々忠上遺事ナキヲ期セリ  
 離宮各官邸、御終末ハ主トシテ軍隊ニ於テ之  
 ニ當レルモ所轄終業及署ニ於テモ亦平素ヨリ  
 既置及巡視ヲ密ニシテ警戒上注意セシメタリ

③ 罹災地特等官、賞恤

特等災濟組合規則、改正

今山の震災に因り、警視廳及神奈川県下ニ於ケル罹災地特等官ハ前述ノ如ク多数ニテ何レモ家ヲ願ルモノナク、家族亦僅クニ身ヲ以テ逃レ家財ハ殆ト燒盡シタルモ、薄給ナル彼等ハ素ヨリ多額ノ蓄財ノアルキ等モナク、折カラ秋冷ノ候ニ向ヒテ着ルニ衣ナク者サハアルノ情况ニテ、其困憊減ニ同情スヘキモノアリ。然ルニ此等ノ災ハ其濟組合規則ニ依ルニ四倍災紡織金ハ月俸ニテ月分ニ相當スル金額以内ヲ給與スルノ制ニテ今回、如ク被害ノ程度殊ニ甚シキモノニ對シテハ其状況如何ヲ参考シテ相當増額ノ

要アリ然レドモ此際多額ノ増額ヲ為スハ事  
 情ノ許リザルモノアルヲ以テ取敢ハス三月分ニ相  
 當スル金額迄ヲ支給シ得ルノ途ヲ講スルヲ以テ對テ  
 認メタルヲ以テ省令第三十號及テ救済共済  
 組合規則第十四條ニ但書ヲ加ヘ非常災害  
 ノ此現著レキ場合ニ於テハ特ニ月俸三月分  
 ニ相當スル金額迄ヲ給スルコトヲ得ルコトニ以テ  
 幾分ニテモ救済ノ災ヲ場ノルコトニ努メ之カ為ニ  
 支出シタル金額實ニ七十五万圓（救済共済法第七十四  
 條第四項第十七之三）

ノ多キニ達レタリ

## (四) 警聲賞英ノ増額

今次ノ地震火災中ニ於ケル警聲官並消防管  
 一行動中ニ悲壯ナル鬼神ヲ泣カレテ  
 斷思ハス業ヲ拘テハルモノアリ例ハ一身十數  
 名ヲ救ヒテ後遂ニ火中ニ生命ヲ送リ或ハ橋頭  
 ニ斃ヲ投テテ荷物ヲ積載ナル車ヲ排棄セリ  
 漸クニテ數百ノ生員ヲ救ヒ得タルアリ  
 當ニ火火ノ中ニ老ヲノミテラス流言ニ白迷ヘル自  
 然國ノ奮動中ニ在リテ其の智能ノ果擧ヲ制シ  
 果斷能ク數名ヲ救ヒタルアリ其後於ケル警聲  
 官ノ活動モ亦賞場ニ値ヒスルモノ甚カラス  
 然ルニ警聲官ノ規則ニ依ル廣興ノ恩額ニ寡少ニ

乙ノ其ノ功勞ヲ標フニ適者ナラサルノミナラス既ニ  
 朝鮮基礎ニ於テハ五百兩進、壹兩ヲ認メ店  
 ルノ現状ナルヲ以テ風ニ之カ改正ノ必要ヲ認メ店  
 又取敢ヘス者令第三十四號ヲ以テ九月一日ノ震災ニ  
 關シ東市社神宮川郡、堺玉郡、群馬郡、千巻郡  
 茨城郡及群馬郡ニ於テ救急ノ特ニ功勞アリシ  
 者ニ對シテハ救急ノ賞典規則ニ於テハ特別賞  
 五百圓以下普通賞百圓以下ヲ授與スルコトヲ  
 得ルコトニ特別ノ救ケアリ



## (三) 消防主任官ノ招致

九月一日ノ震災ニ因リ死者十萬、負傷者十數萬ヲ出シ、數十億ノ財貨ヲ烏有ニ歸セシメシモ、地震其モノ被害ハ比較的輕微ニシテ、振古未曾有ノ慘害ヲ惹起シタルモ、ハ突ニ火災ニ在リシナリ

我國ニ於テハ明治二十六年濃尾ノ大震アリ、名古屋市ハ震源ニ近ク都市トシテ激震ノ洗突ヲ受ケタリト雖モ、慘害今日トノ比ニ非ス、人口ノ都市集中著シカラントスル今日、今次ノ震災ハ將來都市計畫樹立ノ見地ヨリ得難キ資料ヲ供セシト云フヘキモ、亦餘リニ高價ナル代償ナリト謂ハサルヘカラス

此際、京濱ニ於ケル震災狀況ヲ視察調査セシムルハ

都市消防ノ施設計畫上竝地震ニ基因スル火災豫防  
 上裨益スル所多クハキヲ以テ大都市所在地タル大  
 阪、京都、兵庫、愛知等ノ各府縣知事ニ対シ消防  
 主任官ノ派遣ヲ命シ以テ周密ナル調査研究ヲ爲サシメ  
 將來ノ參考ニ資センメタリ

(四) 罹火警署警察官ニ対スル義捐

罹火警署警察官ノ數ハ警視廳約六千、神奈川縣約千五百ニ達シタルカ、火災ニ襲ハレタル地域ニ於テハ各署共署員何レモ決死ヲ覚悟シテ猛リ狂テ火焰ノ裡ヲ消防、其他人命救護ニ従事シ、真ニ身ヲ忘レテノ活動ニ依テ死地ヨリ救助セラレタル人命ハ幾何ナルヲ知ラス

其ノ間ニ於テ尊クモ美シキ功績ヲ残シテ聖職ニ殉シタル者ハ警視廳、相生、署長以下六十七名、神奈川縣警部補以下二十三名ニ達シ、重軽傷者ハ無數ニシテ警察官及消防官ノ家ヲ忘レ妻ヲ顧ミズ、後度カ生死ノ間ヲ往來シテ救護警戒、防火ニ奮闘シ而モ多數ノ殉職者及負傷者等尊キ犠牲ヲ拂ヒタルハ職

務トハ云へ身ヲ殺シテ他ノ人命ヲ救助シタル今次ノ活動コソ  
 之各員ノ崇高ナル奉公至誠ノ發露ニ外ナラス全國警  
 察官吏ハ大阪・兵庫及京都府警察部長ノ主唱ニ依  
 リ是等罹災警察官ニ對スル慰ヲ藉ノ爲義捐金ヲ  
 齎出スルコトナリ現在迄ニ集リタル金額五萬七千  
 圓ニシテ之ヲ配分ク方法ニ就テハ目下關係者間ニ研究申  
 ナリ

0269



震災後ニ於ケル刑事事犯之ニ關聯スル事項調査書

司法省刑事局

震災後ニ於ケル刑事事犯及之ニ關係スル事項調査書目次

緒言

第一章 火災ノ原因

第一 概説

第二 東京ニ於ケル發火原因種別表

第三 東京ニ於ケル發火時刻表

第四 東京ニ於ケル發火事實個別的

調査表

第五 横濱ニ於ケル發火原因種別表

第六 横濱ニ於ケル發火時刻表

第七 横濱ニ於ケル發火事實個別的

調査表

第二章 鮮人犯行ノ流言

第一 概説

第二 横濱ニ於ケル流言ノ出所及傳

播ノ状況

第三 東京ニ於ケル流言ノ出所及傳

播ノ状況

第四 不穩記號ニ就テ

第三章 鮮人ノ犯罪

第一 概説

第二 東京地方裁判所管内ニ於ケル

鮮人ノ犯罪

第三 横濱地方裁判所管内ニ於ケル

鮮人ノ犯罪

第四章

鮮人ヲ殺傷シタル事犯

第一

概説

第二

罪名及被告人員表

第三

被害人員表

第四

犯罪事實個別的調査表

第五章

鮮人ト誤認シテ内地人ヲ殺傷シ

タル事犯

第一

概説

第二

罪名及被告人員表

第三

被害人員表

第四

犯罪事實個別的調査表

第六章

支那人ヲ殺傷シタル事犯

第一

概説



第二章	罪名及被告人員表
第三章	被害人員表
第四章	犯罪事實個別的調查表
第七章	治安維持令違反
第一	概説
第二	被告人員及結果表
第三	犯罪事實個別的調查表
第八章	暴利取締令違反
第一	概説
第二	被告人員及結果表
第三	品目調査表
第九章	社會主義者ノ行動ニ就テ
第十章	軍隊ノ行為ニ就テ

第一

概説

第二

亀戸警察署構内ニ於ケル社會

第三

主義者等殺害事件  
同署ニ於ケル自警團員殺害事

第四

千葉縣下ニ於ケル殺害事件

第十章

警察官ノ行為ニ就テ